

ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.051 }
2023 3.20

特集 ONE TEAM プロジェクト

学生プロジェクト活動紹介(YUME column) / ひとこと報告会 / 寺子屋 / 「ゆにまる」の学生の活動



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の全学生を対象に、学生と地域住民とのふれあいを大切にして取り組む地域連携活動の支援を行っています。

ごあいさつ



本年度は、コロナ禍での活動制限が緩和されたこともあり、比較的多くの企画を実行することができました。天候に恵まれない行事もありましたが、久々に

春夏秋冬の空気を肌で感じつつ、地域の方々と素晴らしい時間を過ごしました。

在学生のみでなく、卒業生も参加してくれたグループ企画もあり、『ゆめ』の活動を通じて深められた松本大学の強い絆を実感しました。スタッフをはじめ、在学生、そして卒業生と、それぞれの思いを結集して充実した活動を実行できたのも、地域の方々の御協力のおかげです。あらためて心より御礼申し上げます。

本冊子でこれまでの活動を紹介させていただきます。是非、御覧頂ければ幸いです。



学校法人松本学園
松本大学

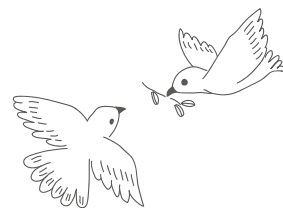
ワン チーム ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域活動の「第一歩」として、「ONE TEAMプロジェクト」を企画しています。地域に生きる人々の想いを知ることを目的に、様々なテーマのもと活動しています。今号では、昨年9月から今年2月にかけて行った活動を紹介します。



9月 「いのちと平和を考える」 今年の取り組みについて



「ONETEAMプロジェクト」では、「いのちと平和」について考える活動を毎年行っています。終戦から80年近く経つ中で、戦争を知る世代が非常に少なくなり戦争体験を取材する機会が失われつつあります。そこで今年の活動では、戦争の実態を取材する活動とは異なり、戦争が引き起こす人々の人生や家族、恋人にまで及ぶ悲しみや苦しみを考えてみることにしました。2月にロシアのウクライナ侵攻という新たな悲劇が始まる中で、ウクライナについて身近に考えていくべきだという声が沸き上がり、写真展と映画の自主上映が企画されました。これには本学の「平和創造研究会」や上智大学同窓会なども協力していただくことになりました。9月18日～20日、「ウクライナ・ロシア・ベラルーシ3つの国の小児病棟で出会った笑顔」写真展を日本ホスピタル・クラウン協会から写真をお借りして、市内上土ふれあいホールで開催しました。また最終日には、1970年に封切られたウクライナを舞台にした映画「ひまわり」を市内上土劇場で上映し、地域の方々と学生との懇談会を催しました。写真展を通じて見る子どもたちの笑顔に癒されながら、その笑顔が今も失われて



いないか、子どもたちの幸せを願いながらも戦争の矛盾を感じざるを得ませんでした。また映画「ひまわり」も地域の方々や学生がともに鑑賞することで、戦争が人々の人生を大きく狂わせる残酷な実態を改めて世代を超えて考える機会となりました。また今年は10月27日に上田市の「無言館」を、新村地区の方々や学生が交流するバスハイクの見学コースとしました。このイベントにおいても学生は地域のお年寄りから、戦争時代の残された家族の気持ちを聞き取る良い機会を設けることができました。

私たちの身の回りに平和を考える材料はたくさんありますが、それを自分事として考える視点が今失われつつあります。『ゆめ』に参加する学生たちにはその実態を見逃さずに受け止めて欲しいと願っています。今年の活動を通じて平和を強く考える学生も決して少なくないと感じました。より多くの若者が平和を願う強い想いを次代に繋げて欲しいと願っています。



学生の感想



開催できたことが成果になったと思います。 (観光4年 伊藤)

ウクライナの侵攻は息の長い人道支援を必要とする状況になりました。そこで私たちができることは、まずはこの問題に関心を持ち続けることだと思い、映画を結びつけたイベントを企画しました。平和や戦争という難しく感じるテーマですが、そこに近づきやすいような形をとって

11月 「塩田平バスハイク 食文化と平和」



11

11月5日(土)、新村地区の皆さんと一緒に上田市塩田平を巡るバスハイクを実施しました。6月同様、今回も茶房「ひといき」との合同開催で、当日は30名近くが参加しました。

まずは「戦没画学生慰霊美術館 無言館」にて、平和と芸術に触れました。戦争中、大切な人を思い浮かべながら描いた人物画や風景画を観ながら涙ぐむ人もおり、改めて平和の大切さを考える機会となりました。次に向かった場所は紅葉が色づく前山寺でした。三重塔を観ながら散策をし、「くるみおはぎ」に舌鼓を打ちました。昼食はキノコをふんだんに使った御膳をいただき、秋を感じながらお腹も心も満たされました。午後は北向観音で参拝をし、ゆっくりお土産を選びました。



今年度はバスハイクを2回実施しましたが、学生が地域の方に手を差し伸べて歩く場面や、地域の方は思い出話を学生に話してくださる場面が見られ、心を通わせながら楽しく交流ができたと思います。

学生の感想



地域の方から参加しようよ、と誘われたのが決め手となり参加しました。無言館から退館する際に、地域の方が「もっと時間が欲しい」と話していたので、もっと時間が確保できているのかなと思いました。北向観音のある常楽寺周辺の雰囲気がとても心地よく、いい場所だなと思いました。(観光2年 平泉)



2月 「四賀のおこわを囲む憩いのサロン」

四

四賀の棚田に植えた「もち米」が地域の皆様により「たわな稲」となり(かまくらや)の皆さんにより刈り取られ、2月24日、金井地区の公民館で「五目おこわ」となりました。それを囲んでの金井地区と西宮地区でのサロンは、和やかに笑いに満ちたものでした。

「この辺は狸に熊に狐が出るんだよ」という話から始まり「孫ほどの学生との会話は楽しくて若返るね」「孫と同じ漢字だね。親しみを感じるよ」「四賀に嫁いで何年も経つけど地域の人の温かさに救われたよ」「私のふるさから大学に通ってるんだね。懐かしく思い出すよ」学生を横に会話が弾み、あっという間の時間を過ごすことができました。福祉を学ぶ取り組みとして実施しましたが、皆さんお元気で学生が元気を頂いたような気がします。

西宮地区では、今年度をもってサロンを終了したいということでしたが、次の日に社会福祉協議会の花村係長さんから、「やめる話でしたが、学生と



の交流や皆さんと話せたことで来年もやる事になったようです」というお話を聞いて「ほっこり」しました。ぜひ、末永くサロンが続くことをお祈りしたいと思います。



学生の感想



田植えのとき、小さな苗だったものが美味しくいただけるようになるまで成長して、食の大切さや農業の大変さを学べた。また、地域の方や先輩方と沢山関わることができ、四賀をもっと知ることができ、昔の知恵を教えていただけました。来年度は、もっと四賀に行き、良さを知りたいなと感じました。(観光1年 北澤)





学生プロジェクト活動紹介

～エンジョイ・クリスマスイベント開催～



こどもあそび隊・キッズスポーツスクール

12月17日(土)に新村公民館で、こどもあそび隊・キッズスポーツスクール主催による「エンジョイ・クリスマスイベント」を0歳から6歳までの未就学児17名が参加して開催しました。本の読み聞かせ、手遊び、工作などを行い大いに賑わいました。

学生たちも子供たちに興味を持ってもらおうと様々な工夫を凝らして接し、子供たちの真剣な眼差しに引き込まれていくようでした。

工作では模造紙にクリスマスツリーを描きました。子供たちの個性豊かな想像力や発想が存分に描かれ、とてもカラフルなクリスマスツリーが完成しました。

新型コロナウイルスの影響で、2年以上開催出来なかった分を取り戻すかのような子供たちの笑顔と輝く瞳はとても微笑ましく、何とも充実した心地よい時間となりました。

学生の感想



コロナウイルス感染拡大から初めての子どもたちと遊ぶ機会となりましたが、模造紙に描かれたクリスマスツリーを自由に飾り付けするなど、活発な姿が見ることができ、運営側もとても楽しかったです。これからも親子が笑顔になれる機会を作っていきたいと思います。(スポ2年 田中)



☆出張あるぶすタウン ～あるぶすタウン・プロジェクト～ ☆

12月4日(日) 警察のお仕事を学ぶ

1月22日(日) カメラマンのお仕事を学ぶ



今年度も新型コロナ感染警戒レベルが高く、大学構内でのあるぶすタウン開催を早々と断念し、学生は何かできないかと出張アルプスタウンを実施することになりました。ところが、これが意外な学びの場となり小学生も大学生も思いのほか良い取り組みとなりました。

警察のお仕事は、職務質問から指紋採取、パトカー乗車に防弾チョッキ着用など経験したことのない学びです。参加した小学生は、将来の職業選択肢として上位希望で、突っ込んだ職務質問を実施し、犯人役の大学生がタジタジする場面も見られました。

カメラマンのお仕事では、デジタルカメラを持って近隣を自由に撮影し、自慢の三点を発表しました。撮り方・構図・意図や思いを発表してもらおうとプロ級の出来栄であるとVIVO(フォトスタジオ)さん絶賛でした。それぞれの職業を経験する機会を小学生に与え、大学生が関わって学ぶ。大学生・小学生共に確かな学びとなり将来の職業選択の参考になったように思います。「百聞は一見に知らず」「王道に道なし」「習うより慣れろ」であろう。



学生の感想



近年学校で開催することができなかったあるぶすタウンが「出張版」という形で開催することが出来ました!!カメラマンの職業では「スタジオ Vivo」さんに御協力いただきました。撮り方のコツなどを子どもたちと一緒に学ぶ事ができ、撮影活動では子どもたちがそれぞれ教えてもらった事を元に楽しそうに撮影していました。子どもたちが楽しそうに学ぶ姿を見ること、プロの方に自分たちも教えて頂けること等多くのことを体験できたため、参加できてとてもよかったなあと思います。(教育3年 吉池)

茶房「ひといき」 ～クリスマス会～



12月10日(土)に茶房「ひといき」主催によるクリスマス会を開催しました。新村地区住民と学生合わせて約30名が参加し、盛大に行われました。

会場をクリスマス装飾に彩り、参加者全員がサンタクロースの帽子をかぶり、まさにクリスマスさながらの雰囲気。また、学生が豆から挽いてくれるコーヒーの香りが、更に会場の雰囲気を引き立たせてくれました。

この茶房「ひといき」には、多彩な趣味や特技を持つ方が多く、新村地区住民によるハモニカ演奏、琴演奏、クイズの他、大学側からも、ゆめちゃんバンドによる演奏やアカペラ合唱など、それぞれ日頃の練習の成果を披露しました。

最後はビンゴで大いに盛り上がり、一足早いサンタクロースからのプレゼントに、心も体も温かな気持ちになりました。本格的な寒さを迎え、笑顔と熱気に包まれた素晴らしいクリスマス会となりました。

学生の感想



12月のひといきではクリスマス会を開催し、学生はサンタさんの衣装を着たり、ビンゴ大会や楽器での演奏など学生と地域の方々が一緒になって大いに盛り上がった特別なクリスマスになりました。地域の方々からは「今年最後に良い思い出ができたよ!」という言葉をいただき、改めて地域の方々から元気をもらうことができたと感じています。(総経3年 青木)

～CoderDojo松本@松本大学 開催～



子どもたちがプログラミングを楽しむ居場所「CoderDojo松本@松本大学」が、1月8日(日)に3年振りに開催されました。学生も代表者の濱田さんも待ちに待った開催でしたが、募集を開始したところ、あっという間に募集人数に達し、子どもたちも再開を待ち望んでいたのだと、主催者側の士気もさらに上がりました。

当日は子どもたち一人ひとりが「viscuit」や「scratch」というプログラミングアプリを使い、自由に絵を描いたり動かしたりして楽しんでいました。学生は子どもたちに寄り添い、声をかけながら自分たちと一緒にプログラミングをやっており、充実感に満ちた表情をしていました。

その後、2月3月と毎月、各回の課題も活かしながら開催できました。保護者の方からは「子どもが自分の好きなことを思いきりできる居場所になっている」という言葉もいただき、今後も定期的に開催していくことが大切だと感じられました。

学生の感想



今年度はコロナ禍ということもあり、1月からの開催となりました。子ども達は皆思い思いの活動をしており、動画を作る子やゲームを作る子、パソコンの中のファイル整理をする子等様々な主体的活動が見られました。今後もプログラミングを楽しむ居場所としてCoderDojoを開催していきたいです。(教育3年 井内)





小澤

キッズホッケー

子どもたちと学生がホッケーを通して、体を動かす楽しさや面白さを感じてもらうことができたと思います!練習内容を考えることや、子どもたちへの声かけやサポートの仕方などを試行錯誤しながら、多くの学生が子どもたちと交流することができました。



三井

こどもあそび隊・キッズスポーツスクール

今年度は久しぶりに対面で活動ができたので、来年度も引き続き『月刊イクジまつもと』にて記事を掲載しつつ、多くの子ども達を楽しめるようなイベントを行っていききたいと思います!



平井

「ゆめ」編集

今年度は3年ぶりに「Volere!」の発行ができました。

1年間かけて作業をやってきて完成したときのやりがいすごかったです。

協力してくれた皆様、ありがとうございました。



学生プロジェクト



ひとつと

報告会



猿田

ええじゃん栄村

今年は多くの訪問ができ充実した活動ができました。地域住民の方がええじゃん栄村を快く受け入れてくださることに改めて感謝します。活動数も増え地域間、メンバー間の交流が深まり、栄村とメンバーの魅力を一層感じる1年間になりました。皆さん、ありがとうございました。



鈴木

すすはなプロジェクト

1年間、コロナ禍の中でしたが新メンバーも沢山加わり、様々な活動を行うことが出来ました。特にすすき川花火大会が無観客でしたが開催され、私たちも様々な形で関わることが出来ました。来年度も積極的に地域と関わり、地域を盛り上げていきたいです。



高木

Sign

今年度は2回の手話学習会と学内のバリアフリー調査を行いました。初めて手話を体験しましたが、メンバーと楽しく学ぶことができてよかったです。学内のバリアフリー調査では車イスを使って移動するのが困難な場所を見つけたりしました。活動を通じて障害者の方の理解を深めることができました。



田中

松本大学サンタ・プロジェクト・まつもと

サンタは人と人との想いを繋ぐ活動です。創立理念の根源に迫ったことで、メンバー全員で“サンタ・プロジェクト”としての存在価値を見いだせました。多様な視点に気付ける人が社会問題に向き合えるのだと実感するとともに、個人が願う想いを紡ぐことのできる人になりたいです。



福永

あるぷすタウン

今年度は「出張あるぷすタウン」という形で、警察官とカメラマンの職業で活動を実施しました。どちらも子どもたちとご協力いただいた企業様、学生の素敵な笑顔で溢れ、学びが多い、とても貴重な時間になりました。あるぷすタウン開催にご協力いただいた方に感謝でいっぱいです。



名古

CoderDojo松本 @松本大学

今年度は約3年ぶりに開催することができました。毎回定員を満たして、地域の方々には再開を楽しみにしてくれていたということを感じることができ、とても嬉しかったです。様々な人に協力していただき、感謝もしきれません。来年度も楽しみながら活動してほしいです。

『ゆめ』には12組の学生プロジェクトがあり、それぞれ個別の目的を持って地域連携活動に取り組んでいます。2022年度はコロナ禍の中でもできることを模索した1年でした。各プロジェクトの代表学生の皆さんより、熱い想いを寄せていただきました。

概要



☆＼1年間を振り返って／☆

今年度はプロジェクトの枠を越えた、ゆめカフェや大学祭での展示等、全体としての活動が活発に行われました。その要因の一つが、各プロジェクトリーダー・副リーダーを中心に頻繁にミーティングや企画・準備作業を行っただけでなく、活動ごとの打ち上げやプライベートの交流も積極的に行いました。一方で、各プロジェクトの課題として活動参加率の低下が挙げられています。活動時に集まるだけでなく、メンバーとの活動外での交流も行うことで、参加しやすい環境・人間関係を作り、学生生活や人の繋がりを充実させ、それが活動の盛り上がりにも繋がると、今年度の多くの活動を振り返って感じました。職員の方皆さんもサポートだけでなく、私たちに多くの学びと楽しみを与えてくださって感謝しています。ありがとうございました！
(スポ3年 廣瀬)



工藤

松本BBS会

今年度は、子どもたちとの交流を行う「寺子屋」、大学近くの神社での清掃活動など、新しい活動を多く実施できました。写真を見返すと、学生メンバーが笑顔で写っている様子が印象的で、充実した1年間になりました。来年度は、より多くの学生を巻き込みながら活動したいです！



今村

◎いただきます!!

今年度は昨年と一転して多くの活動に挑戦する一年となりました。計画していた中でも取り組めた活動、コロナで取り組めなかった活動とありましたがプロジェクトの活動量を増やせたので意義のある一年になったと思います。来年度も、もっと多くの活動を行っていききたいと思います。



小林

茶房「ひといき」

学生も地域の方もみんな楽しい場となるよう意識し、また来たいと思ってもらえるような交流のあり方・企画を考えました。メンバーや地域の方々、職員さん全員に支えられ、毎回新しい発見そして素敵な笑顔が生まれるひといきを開催できました。本当にありがとうございました。

地元小学生との交流

寺子屋大好評



学生の感想



子どもの健全な育成には、「楽しい気持ちが必要」という考えの基、寺子屋は始まりました。学生が協力しながら、子どもたちが楽しめる企画を考えています。開催される度に参加者も増え、子どもたちの笑顔が溢れる居場所となってきました。今後、さらに笑顔が溢れる居場所になるよう、学生一同頑張ります。(総経3年 大住)

今年度の後期以降、『ゆめ』のプロジェクトではありませんが、地元の小学生を対象に有志の学生が独自企画した「寺子屋」を実施しました。小学生の勉強や宿題のサポートのほか、各回とも学生が思考を凝らしたゲームやイベントも行い交流を図っています。小学生からも大好評で、学生たちも小学生の弾ける笑顔に心を癒され、逆に小学生たちからたくさんのことを吸収し学びの場につながっています。今後も地域の小学生と学生が共に学び成長できる場として、様々な企画を計画していきたいと思います。

これまで実施した「寺子屋」の 主な内容等は下記の通りです。

- 1回目 2022年11月27日(日) 学習支援・ペーパーランタン作り
- 2回目 2022年12月18日(日) 学習支援・クリスマスツリー作り
- 3回目 2023年 1月21日(土) 学習支援・かるた・福笑い
- 4回目 2023年 2月18日(土) 学習支援・節分豆まき・恵方巻作り

高大連携を「ゆにまる」の学生の活動

「ゆにまる」は高校生が行う販売学習を学生の立場からサポートするための有志グループです。今年度の彼らの活動をここに2つ紹介します。

高校生と大学生がバレンタインの期間に合わせて開発した商品を販売する恒例イベントが2月4日～5日、「アイシティ21」で開催されました。当日は、県下4高校から、地域の特長を活かした24種類のスイーツが並び、本学も金子ゼミが創意工夫をした高級ケーキの販売を行いました。「ゆにまる」の学生は、チラシ作り、看板作り、販売方法の指導など、高校生のアシストを率先して行い完売に貢献しました。

「ゆにまる」は今年度から独自にカレー販売にも挑戦しています。松本の人気カレー店が開発したレトルトカレーを(株)井上百貨店の協力のもと、11月の恵比寿講、2月の松本建築芸術祭に合わせて販売しました。ひそかなブームとなっている名店カレーにスポットライトを当てることを目的に、パンフレットの作製をはじめ優れたマーケティングを行うことで、完売に近い成果を上げました。学生たちはこの活動を高校生の学習に広げることを狙いながら、さらに質の高い販売に挑戦しようとしています。



学生の感想



観光客の方や地域の皆様、高校生など様々な方と関わりを持てる貴重な活動でした。イベント毎にお客様のニーズが異なるため、常にお客様目線で考え、楽しんでもらえる雰囲気作りや接客を心掛けました。ゆにまるの皆や沢山支えてくださった教職員の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。素敵な思い出がたくさんできました!(短大2年 降旗)

編集後記

『先生。居ますか』ゆめの下から地域の方が散歩の途中で呼んでいます。むろん聞こえるはずがありません。街で会うたびに、『先生、散歩のとき、あの下で呼んでるのに』冗談半分で聞いていましたがほんとだったようです。『今度は近い入り口から上がってください』『学生に『ゆめ』はどうやって行くか尋ねてください』そんな話が、ゆめの活動を通じて聞けるようになりました。学生も職員も『ひ

とき』でお茶を飲みながら、ワンチームで松本市奈川地区や上田無言館に行くバスの中で、その他多くの場所で、地域の皆さんからたくさんの声を聴くことができるようになりました。今年度も沢山の出会いと沢山の会話が、学生と地域の皆さんを近づけたように思います。関わられた者として感謝の気持ちで一杯です。そして、いつかきっと窓の下の声が部屋まで届く日が来るような気がします。(丞山)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階
開館日時: 月～金 10:00～18:00
TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216
E-mail: community@t.matsuo.ac.jp



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>